PCT

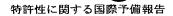
特許性に関する国際予備報告(特許協力条約第二章)

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の書類記号 TU03-0903WO1	今後の手続き	きについては、様	式PCT/	IPEA/41	6を参照す	ること。
国際出願番号 PCT/JP03/12777	国際出願日	06.10.2	2003	優先日 (日.月.年)	1.0.01	. 2003
国際特許分類 (IPC) Int. Cl' C	23C14/3	34, C22C1	9/03			
出願人 (氏名又は名称) 株式会社日鉱マテリ	リアルズ					

NUCATY PP II MY
1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で3 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。 a × 附属書類は全部で 2 ページである。
★ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙(PCT規則70.16及び実施細則第607号参照)
第 I 欄4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの 国際予備審査機関が認定した差替え用紙
b 電子媒体は全部で(電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。(実施細則第802号参照)
4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
 ※ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎 第 II 欄 優先権 第 II 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成 第 IV 欄 発明の単一性の欠如 ※ 第 V 欄 P C T 3 5 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 第 VI 欄 ある種の引用文献 第 VI 欄 国際出願の不備 第 VI 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 04.03.2004	国際予備審査報告を作成した日 13.09.2004			
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP)	特許庁審査官(権限のある職員) 4 G 9	157		
郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	前田(仁志			
次次的TIVEERA	電話番号 03-3581-1101 内線 341	6		





第 I 欄 執	&告の基礎	
1. この国	国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか	、国際出願の言語を基礎とした。
	の報告は、 語による翻訳文を れは、次の目的で提出された翻訳文の言語である PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査 PCT規則12.4にいう国際公開 PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査	5。
	被告は「記の田願普類を基礎とした。(佐弟6宋 用紙は、この報告において「出願時」とし、この	(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出され 報告に添付していない。)
П н	出願時の国際出願書類	·
× 明 第 第	· ページ*、	出願時に提出されたもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第		出願時に提出されたもの PCT19条の規定に基づき補正されたもの
	第 ページ/図*、	出願時に提出されたもの
	記列表又は関連するテーブル 配列表に関する補充欄を参照すること。	
	献正により、下記の書類が削除された。 明細書 第	ページ 項 ページ/図 ること)
) <u> </u>		添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超れなかったものとして作成した。 (PCT規則70.2(c))
	明細書 第 請求の範囲 第 図面 第 配列表(具体的に記載すること) 配列表に関連するテーブル(具体的に記載する)	ページ 項 ページ/図 ること)
* 4. K	該当する場合、その用紙に "superseded" と記。	入されることがある。



国際出願番号 PCT/JP03/12777

· 見解			
<i>y</i>		•	
新規性(N)	請求の範囲	1-10	
	請求の範囲		
進歩性(IS)	請求の範囲	1-10	
	請求の範囲		<u> </u>
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1 - 1 0	:
. —	請求の範囲		

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

請求の範囲1-10に係る発明について 請求の範囲1-10に係る発明は、国際調査報告で引用された文献に対して新規

性、進歩性を有する。 国際調査報告で引用された文献には、タンタルを 0.5~10at%含有し、残部ニッケルである合金を、ゲート電極材料用スパッタリングターゲットとして用いることが記載されておらず、しかもその点は当業者といえども容易に想到し得ないも のである。